

第 549 回 統計審議会議事録

- 1 日 時 平成 10 年 6 月 19 日 (金) 14:00～15:50
- 2 場 所 共用第 3 特別会議室 (中央合同庁舎第 4 号館 4 階)
- 3 出席者 計 19 名
(委 員)
溝口会長、腰原委員、松田委員、井原委員、美添委員、廣松委員、昆委員、
酒井委員、遠藤委員、筑波委員、五十畑委員、江川委員、村山委員
(委員代理)
丸山 (知久委員代理)
(総務庁)
大戸統計基準部長、柚木統計企画課長、渡辺国際統計課長、金子統計審査官、
田所統計審査官

4 配布資料

- (1) 部会の開催状況
 - 部会の開催状況一覧
- (2) 答申事項
 - 諮問第 255 号の答申
家計調査及び単身世帯収支調査の改正について
- (3) 報告事項
 - 「統計行政の新中・長期構想」の推進状況 (概要)
 - 第 46 回ヨーロッパ統計家会議について
 - 労働力調査 (速報) 平成 10 年 4 月結果
 - 平成 10 年 2 月労働力調査特別調査 (速報) 結果の概要
 - 平成 10 年 2 月労働力調査特別調査 (速報) 統計表
 - (参考) 失業者の国際比較の際の定義の調整について
- (4) その他
 - 平成 10 年 4 月指定統計・承認統計・届出統計月報 (第 46 巻・第 4 号)
 - 指定統計の公表実績及び予定
 - 第 547 回統計審議会議事録

5 議題及び議事

- (1) 村山委員あいさつ
村山委員から就任に伴うあいさつがあった。
- (2) 部会の開催状況
 - ① 平成 10 年 5 月 21 日に開催された第 64 回農林水産統計部会 (議題: 「農業経営統計調査等の家計収支について」及び「農林水産統計の今後の方向について」) の開催結果について、腰原農林水産統計部会長から報告が行われた。
[質 疑]
松田委員) 二点質問がある。一点目は、農業経営統計調査に関し、その中の家計費の取扱いの説明はよく分かったが、農家経済余剰を計算する上で単純

に総額だけでよいのか。全国消費実態調査の調査対象に農家が追加された際、9月、10月、11月の3か月の家計消費の中に、ある県の脱穀に使用した電力が加えられ、かなり異常値が出たという記憶があるので、単に総額だけでいいのか。

また、耐久消費財の分布でバン等の自動車が農村部に普及しているのは、農家の生計用とも考えられるし、生産活動のための用具であるともとれる。このような若干の特記すべき品目については、総額の所に注記する必要はないのか。

二点目は、集計方法に関し、農業経営統計調査の日計簿はそれぞれの統計情報事務所に保管されており、非常に有益な情報が収集されているが、それが統計化されていないというのは残念である。生計費部分を調査しないならば、農業経営の季節変動部分について統計情報部で一元的に集計するという考えはないのか。

腰原委員) 従来から、電力、自動車等のように生計費と生産費の両方に関わるものについては、何パーセントが生産費にかかり、何パーセントが生計費にかかるかを聞き取りによって調査費用に記入する形になっており、その点は今後も同じような取扱いになる。後者は、現段階では従来どおりである。

(3) 答申事項

○ 家計調査及び単身世帯収支調査の改正について

総務庁統計局統計基準部金子統計審査官が答申案を朗読し、美添国民生活・社会統計部会長が部会審議経過及び答申案を説明

[質 疑]

松田委員) 二点質問がある。一点目は、三区分の系列ができると、それぞれの乗率はどのような形に、特に農林漁家世帯の乗率はどのような形になるのか。二点目は、非標本誤差に関する資料の提供は非常に画期的で楽しみにしているが、現行の世帯票においても、家計調査では、「家族で同居していない者の数」とか、単身世帯収支調査では、「世帯の形態」などの貴重な情報が含まれている。これをただ単に異常値等の検出だけでなく表章でも活用し、情報を提供するような世帯の類型区分を行うことは可能なのか。

美添委員) 一点目の質問は、推計方式を部会に提出し、各自検討することにしたが、部会では推計方式について特に疑問は出なかった。調査技術的な表現を使うと、第一段で確率比例抽出をし、それが市町村となる。第二段の調査単位区は、確率比例ではなく単純無作為である。第三段も単純無作為である。層別に分けて整数にするところは、正確な比例配分にはならないが、層別の単純無作為となる。したがって、乗率の点では、市町村の抽出確率のギャップが生じるだけで、後は抽出率をそのまま比例すれば良いので特に問題ない。追加説明が必要なら調査実施者から回答をお願いします。二点目の質問はもう一度説明をお願いします。

松田委員) 先ほど述べた「家族で同居していない者の数」などの項目は、今の家計調査の集計表の世帯類型には出てこない。おそらく異常値の検出等のエラーが無いかどうかには活用されている。世帯の類型としては非常に重要なので、本報告書に載せることができるような精度のものか分からないが、いろいろな検討、試算の結果等を積極的に何らかの形で出してほしい。

美添委員) 必要であれば、乗率の問題と合わせて調査実施者から別の機会に回答を求めた方が良いと思う。

松田委員) 一点目の質問は、「勤労者世帯と勤労者世帯以外の世帯と農林漁家世帯の三系列になった時、その乗率がどのような形になるのか、単純に逆数をとった時、表章に耐えられるものになると考えているのか。」ということである。

美添委員) 農林漁家世帯は、家計調査の分類だと勤労者世帯でありながら農林漁家世帯でもあるいわゆる兼業農家の層を含む。その層から得られたものに農家の乗率がかかるとすると、更に慎重な検討が必要となる。

松田委員) 答申案に対して格別異論があるわけではないので、今の議論については、集計結果が出るまでに解決してほしい。

溝口会長) 二点目については、即答できないので、そのような点について審議会で委員から要望があったということ記録に留めたい。

村山委員) 私たちは統計メーカーという立場と同時に統計ユーザーとして仕事をしている。最近の消費動向をみると、従来は経済変動に対して安定化効果があったものが、かなり経済変動そのものの原因になっている。特に金融政策を遂行する上で、私たちは消費について非常に大きな関心をもっており、家計調査を非常に大切な統計として使っている。そういう意味からしても、今回の家計調査の拡充は非常に大きな前進ということで、高く評価し、感謝している。

あと要望が一点ある。非常に細かい消費項目になると、どうしてもサンプル数の関係で不安定なところがあるわけで、今後の課題として、今の部会の検討の中でも意見があったように、よりサンプル数の充実を図ってほしい。特に、消費の鍵を握っている単身世帯について、今回も拡充され、大変ありがたいが、なお一層のサンプル数の充実を図り、非常に細かい消費の項目については、例えば、簡単な調査をランダムサンプリングすることも有益なアイデアの一つだと思うので、引き続き検討してほしい。要望として書き留めていただきたい。

美添委員) 定期的な課題検討の場の材料にすることとして、その機会に、また発言してほしい。

溝口会長) 特に答申案についての異論は無かったように思う。定期的な検討については複数の意見があったので配慮してほしい。その点を付け加え本案をもって当審議会の答申として総務庁長官に答申することとしたい。

昆 委員) 家計調査及び単身世帯収支調査の改正について答申を頂くことになり、

ありがとうございました。これで長年の懸案である家計調査の一元化に大きく前進した。御指摘、御要望のあった点について十分勉強し、成果を挙げるよう努力していきたい。

(4) 報告事項

① 「統計行政の新中・長期構想の推進状況について」

総務庁統計局大戸統計基準部長が、資料『「統計行政の新中・長期構想」の推進状況（概要）』に基づき、概略を報告

〔質 疑〕 特になし

② 第46回ヨーロッパ統計家会議の結果について

総務庁統計局大戸統計基準部長が、資料「第46回ヨーロッパ統計家会議について」に基づき、概略を報告

〔質 疑〕 特になし

③ 最近の労働力調査結果について

総務庁統計局統計調査部飯島労働力統計課長が、資料「労働力調査（速報）平成10年4月結果」、「平成10年2月労働力調査特別調査（速報）結果の概要」、「平成10年2月労働力調査特別調査（速報）統計表」及び「（参考）失業者の国際比較の際の定義の調整について」に基づき、概略を報告

〔質 疑〕 特になし